

令和4年度 西東京市立中原小学校 学校評価計画表

学校教育目標
 ◎よく考える子 (問題解決力) 自ら問いをもち課題に向き合う児童
 ○思いやりのある子 (人間関係形成力) 自らも人も大切に考える児童
 ○じょうぶな子 (健康管理能力、体力) 自分から体を鍛える児童
 ○進んで実行する子 (実践力) 前向きに行動する児童
 ○よく働く子 (社会貢献力) 前向きに行動する児童

目指す学校像 (ビジョン)
 【目指す学校像】 子どもが生き生きと学習し、教職員が使命感をもって教育活動し、保護者や地域が信頼して協力を学校
 【目指す児童像】 知・徳・体の調和がとれ、自らの向上を図る児童
 【目指す教師像】 専門職としての使命感と誇りをもち、創意工夫に満ちた授業の充実に努め、子ども心に灯をともすことのできる教師集団。また、常に思いやりの心と規範意識をもち、児童1人1人を大切にせる教師集団。

前年度までの学校経営上の成果と課題
 (成果) 9年間を通じた学習・生活・授業スタンダードを継続・徹底したこと、児童の学習規律が向上した。また、一人一台のタブレット端末が貸与され実践を重ねることでICTの操作技術が向上し、オンライン学習への対応力も向上した。
 (課題) 自ら学ぶ力の向上を目指し、「振り返り」を重視した学習活動及びICTの効果的活用を進めることで、授業改善に努めていく。同時に若手教員の継続した育成を重点項目の一つとして取り組む。

中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	具体的内容(指標)	努力目標(評価基準)		成果目標(評価基準)		努力目標 中間 年間	成果目標 中間 年間	分析コメント	改善策	学校関係者 評価	学校関係者 評価記入欄	
				1	2	1	2							
誰か できる、分かる、考 える楽しさを味わ える授業の創造	9年間を見過した学習規律、学習習慣の定着を図る。	「中原小学習スタンダード」を全学級で継続指導し、学習規律を徹底する。 「家庭学習の手引き」の全家庭への配布や自主学習週間を設定等を通して、家庭学習の習慣化を図る。 【学力向上】	○「中原小学習スタンダード」を教室掲示し、学級指導、授業時間等で児童の意識のための指導を行う。 ○学年に応じた学習課題を毎日取り混ぜる。課題は学習型の課題を優先する。	4 全教員が計画を実施 3 90%以上の教員が実施 2 80%以上の教員が実施	4 スタンダードに対する児童の達成度が90%以上 3 スタンダードに対する児童の達成度が80%以上 2 スタンダードに対する児童の達成度が70%以上	4 4	4 4	4 4	4 4	児童の90%以上が「中原小学習スタンダード」を守っている」と答えている。	全学級における「スタンダード」の徹底を推進指導することを継続して行っていく。 対面授業が通常通りになったことで、個別対応が可能になった。よって、さらに各教科等に、おける細やかな指導、基礎基本の繰り返し指導、個に応じた対応を進めていく。 「授業スタンダード」による授業の流れが定着していることで、今後より分かりやすい授業の工夫を、校内全体で取り組んでいく。	A		
	基礎・基本の学習内容の確実な定着を図る。	「基礎的・基本的な学力の傾向を把握し個に応じた指導の工夫をする。 ノートの使い方を理解し、工夫して活用できるように指導する。 【学力向上】	○算数ベースッドルを活用し、反復練習に取り組ませる。 ○学年の発達段階に応じて、工夫してノートがとれるように指導する。	4 全学級が計画を実施 3 90%以上の学級が実施 2 80%以上の学級が実施	4 計算診断テストで80点以上の児童が70%以上 3 計算診断テストで80点以上の児童が60%以上 2 計算診断テストで80点以上の児童が50%以上	3 3	3 4	4 4	4 4	児童の90%以上が「算数力」について答えている。	今後もICT機器の活用は、ますます必須となるため、より効果的な活用方法を研究し、進めたい。合わせて児童の学習の目覚めや学習意欲の向上を図りたい。	A	子どもたちがタブレット端末を上手に活用していました。児童も、もう少し大きいともう少し思います。	
	特別支援教育の視点及びICTの効果的活用による授業改善を図る。	「児童の学びの傾向を把握し、より分かりやすい、きめの細かい指導を工夫する。 主体的、対話的で深い学びを実現するために、「中原小授業スタンダード」の浸透を図る。 【学力向上】	○学年会・分科会で教材研究の時間を設定し、児童が集中して学習できる環境整備を工夫する。 ○「授業スタンダード」を設定し、毎時間、学習のめあてで振り返りを必ず実施する。	○ICT機器の基本的な使い方を身につけるために、授業以外の時間も触れる時間をもつ。 ○主体的・対話的で深い学びの実現のために、「個別最適化」協同的な学習」の視点から授業の工夫を行う。	4 全教員が計画を実施 3 90%以上の学級が実施 2 80%以上の学級が実施	4 授業に対する児童の満足度が90%以上 3 授業に対する児童の満足度が80%以上 2 授業に対する児童の満足度が70%以上	4 4	4 4	4 4	4 4	児童の90%以上が「授業が分かりやすい」と答えている。	児童もICT機器の活用は、ますます必須となるため、より効果的な活用方法を研究し、進めたい。合わせて児童の学習の目覚めや学習意欲の向上を図りたい。	A	
					4 全教職員が計画を実施 3 90%以上の教員が実施 2 80%以上の教員が実施	4 児童アンケートの肯定的回答が90%以上 3 児童アンケートの肯定的回答が80%以上 2 児童アンケートの肯定的回答が70%以上	4 4	4 3	3 3	4 4	児童の80%以上が「タブレット端末を学校や家庭での学習に取り入れている」と答えている。		A	
人との関わりを通し、思いやりの心と規範意識の育成	あいさつを中心とした言動振る舞いを進めるとともに、いじめを許さない学校づくりを醸成する。	「あいさつを中心として人と関わる力を高める指導を継続する。 教職員全員でいじめに関する情報を共有し、指導・支援にあたる。 【生活指導】	○あいさつ指導を年間を通して行う。 ○いじめアンケートを年間3回実施するとともに、いじめに関する授業を毎学期1回行い、いじめ防止に努める。	4 全教員が計画を実施 3 90%以上の教員が実施 2 80%以上の教員が実施	4 あいさつに対する保護者の満足度80%以上 3 あいさつに対する保護者の満足度70%以上 2 あいさつに対する保護者の満足度60%以上	4 4	4 4	4 4	4 4	保護者全体の約80%が「子どもは挨拶ができる」と答えた。	挨拶に関しては、自分から進んで挨拶ができるように年間を通して指導を行っている。 今後も継続していき、これからも「中原小生活スタンダード」を明確に周知徹底して個別支援教育の推進については、今後も感染症予防対策をしながら、タブレット端末も活用しつつ、通学学級との交流及び共同学習を充実させていく。	A		
	9年間を見過し、生活規律を徹底し、きまりを守る態度を育成する。	「中原小生活スタンダード」を継続指導し、全学級で生活規律を徹底する。 【生活指導】	○朝や帰りの会、学級の時間等で、きまりを守る指導を行う。 ○「中原小のきまり」「中原小生活スタンダード」を教室掲示し、月ごと行動を振り返らせる。	4 全教員が計画を実施 3 90%以上の教員が実施 2 80%以上の教員が実施	4 スタンダードに対する児童の達成度が90%以上 3 スタンダードに対する児童の達成度が80%以上 2 スタンダードに対する児童の達成度が70%以上	4 4	4 4	4 4	3 3	児童全体の約89%が「中原小生活スタンダード」を守っている」と答えた。		A	つくし学級との交流が深まることを期待しています。	
特別支援教育の推進	通常学級とつくし学級との交流を通して、互いの個性を尊重し合う教育活動を進める。	「交流及び共同学習などで互いを知り、認め合う活動に取り組む。 【生活指導】	○毎学期、通常学級とつくし学級で合同学年会を行い、児童の実態に即した交流及び共同学習を計画し、実施する。	4 全教員が計画を実施 3 90%以上の教員が実施 2 80%以上の教員が実施	4 特別支援教育に対する保護者の満足度が90%以上 3 特別支援教育に対する保護者の満足度が80%以上 2 特別支援教育に対する保護者の満足度が70%以上	2 3	3 3	4 4	4 4	保護者全体の約90%が「子どもは思いやりのある行動をできる」と答えた。		A		
	身体的活動を充実させ運動の習慣化を図る。	「走力・跳力を基本とし、その他に握力、投擲力の向上を図る実践をする。 【体力向上】	○持久走や縄跳びの強化月間を設け、全校で取り組む。 ○スポーツテストの結果を分析し、学年課題の運動に重点的に取り組ませる。	4 全学級が計画を実施 3 90%以上の学級が実施 2 80%以上の学級が実施	4 毎日外で遊ぶ児童の割合が90%以上 3 毎日外で遊ぶ児童の割合が80%以上 2 毎日外で遊ぶ児童の割合が70%以上	4 4	4 4	2 2	2 2	児童全体の約80%が「外で元気よく遊んでいる」と答えた。		A	縄跳びやマラソンに加え、楽しみながら体力を向上させる取り組みに期待します。	
健康教育の推進	家庭と連携し、心身の健康および食育についての意識を高める。	「保健・給食に関わる日常的な指導を実施する。 【生活指導】	○年間2回、「元気づけいチェックカード」を活用して自分の生活について調べ、振り返りを行う。 ○給食だけでなく「中原ランチ」を活用し、食の大切さを伝える。	4 全教員が計画を実施 3 90%以上の学級が実施 2 80%以上の学級が実施	4 生活習慣に対する保護者の満足度70%以上 3 生活習慣に対する保護者の満足度60%以上 2 生活習慣に対する保護者の満足度50%以上	2 3	3 3	2 2	2 2	保護者全体の約80%が「子どもは健康・早起き・歯磨きを習慣化できている」と答えた。 睡眠時間の確保など、家庭と連携しながら生活習慣の改善に向け取り組むを継続していく。		A		
	児童の防災意識を高め、非常時の対応力を育成する。	「計画的な避難訓練、実際に近い想定での避難訓練の実施によって児童の防災意識を高める。 【生活指導】	○多様な想定による避難訓練を行う。避難訓練後に全学級で振り返りを行う。併せて「防災ノート」や「マイタイムライン」も毎学期1回以上活用して指導を行う。	4 全教員が計画を実施 3 90%以上の教員が実施 2 80%以上の教員が実施	4 避難訓練に対する児童の達成度が90%以上 3 避難訓練に対する児童の達成度が80%以上 2 避難訓練に対する児童の達成度が70%以上	4 3	3 3	4 4	4 4	児童全体の約97%が「避難訓練で安全に気を付けて活動している」と答えた。	毎月、多様な設定による避難訓練を実施し、自らを守る方法を考える時間をつくり、話し合っている。また、火の危険性や不審者から身を守る方法も学んでいる。		A	不審者を察知する能力の向上や、身を守る方法の習得は大切だと思います。
安全・教育環境の充実	安全で誰の行き届いた学習環境作りを努める。	「施設・設備の点検、整備を定期的に行う。 登下校指導、自直時の看護当番の見回りを行う。 【生活指導】	○施設・設備の点検整備を毎月1回行う。 ○毎学期に、始めと終わりに登下校指導を行う。また、看護当番が毎日校内の見回りを行う。	4 全教員が計画を実施 3 90%以上の教員が実施 2 80%以上の教員が実施	4 施設に対する保護者の満足度が90%以上 3 施設に対する保護者の満足度が80%以上 2 施設に対する保護者の満足度が70%以上	4 4	4 4	4 4	4 4	保護者全体の約90%が「学校は設備の点検整備、登下校の安全や不審者対応に努めている」と答えた。		A		
	児童の防災意識を高め、非常時の対応力を育成する。	「計画的な避難訓練、実際に近い想定での避難訓練の実施によって児童の防災意識を高める。 【生活指導】	○多様な想定による避難訓練を行う。避難訓練後に全学級で振り返りを行う。併せて「防災ノート」や「マイタイムライン」も毎学期1回以上活用して指導を行う。	4 全教員が計画を実施 3 90%以上の教員が実施 2 80%以上の教員が実施	4 避難訓練に対する児童の達成度が90%以上 3 避難訓練に対する児童の達成度が80%以上 2 避難訓練に対する児童の達成度が70%以上	4 3	3 3	4 4	4 4	児童全体の約97%が「避難訓練で安全に気を付けて活動している」と答えた。	毎月、多様な設定による避難訓練を実施し、自らを守る方法を考える時間をつくり、話し合っている。また、火の危険性や不審者から身を守る方法も学んでいる。		A	不審者を察知する能力の向上や、身を守る方法の習得は大切だと思います。
業務の効率化	整理、整頓、清掃の習慣化を徹底し、時間の効率化、業務の効率化を図る。	「机上、机下、棚の整理整頓を定期的に行う。 時間、業務の効率化のためにメールや掲示板の活用を積極的に行う。 【教務部】	○学期末など必要に応じて整理・整頓週間を設ける。 ○回覧板で周知できる内容は、回覧板を活用する。 ○情報共有をこまめに行うことで業務の効率化を図る。	4 全教員が計画を実施 3 90%以上の教員が実施 2 80%以上の教員が実施	4 環境に対する保護者の満足度が90%以上 3 環境に対する保護者の満足度が80%以上 2 環境に対する保護者の満足度が70%以上	2 4	4 4	4 4	4 4	学期末など整理整頓の機会を定期的に設けているため、学習環境や生活環境は整っている。		A	より日常的に整理整頓を心掛けるようお願いします。	
	協働関係の強化	幼稚園・保育園、中学校、地域との連携による教育活動を推進する。 【特活・文化】	○各学年、年2回以上地域人材を活用した体験的授業を実施する。 ○スター・プログラムを確実に進め、9年間を意図した生活や学習のスタンダードを確立する。	4 全学年が計画を実施 3 5学年が実施 2 4学年が実施	4 連携に対する保護者の満足度が90%以上 3 連携に対する保護者の満足度が80%以上 2 連携に対する保護者の満足度が70%以上	4 4	4 3	4 4	4 4	保護者の約94%が「今年度も昨年同様、新型コロナウイルス感染症の影響で様々な活動が制限されたが、可能な範囲で保護者・地域との連携等、工夫して実施している。全校会や学年会等校内オンラインで行っている。幼稚園、保育園、中学への連携も教育支援センターを発行して情報発信しているため、約89%の保護者が満足している」と答えた。		A	・音楽会など、中学校との連携が復活できると嬉しいです。	
地域に中原小の教育を発信することで、理解と協力を得る。	地域に中原小の教育を発信することで、理解と協力を得る。	「学校からの積極的な情報発信を行う。 【評価・情報】	○学校便り(毎月1回)、学年便り(毎月1回)、学級通信(随時)を活用して計画的に情報発信を努める。またホームページを活用して日々情報を発信する。	4 全教員が計画を実施 3 90%以上の教員が実施 2 80%以上の教員が実施	4 情報発信に対する保護者の満足度が90%以上 3 情報発信に対する保護者の満足度が80%以上 2 情報発信に対する保護者の満足度が70%以上	4 3	3 3	4 4	4 4	定期的なHPを更新したり、学校だよりや学年会を中心に行っている。これらも中学校は、情報だよりホームページなど積極的に情報発信に努めている。		A		